

ブルーマーリン
ポイントリサーチ徹底取材
Vol.02, 西部エリア

PAALAU WEST SIDE STORY

New

普段何気なく潜っている、ダイビングポイント。

その多くが先人ガイドたちの残してきた開拓の足跡であることは、

ダイビングを楽しみに訪れた多くのダイバーにとってみれば、あまり興味の無いこととまで感じられる。しかし、そういう先人たちの開拓のおかげで、

パラオには、ブルーコーナーという世界屈指のダイビングポイントや、
マンタで人気のジャーマンチャネルが誕生してきたわけだ。

ブルーマーリンのポイント開拓は、手薄だった東側に留まらず、
人気の既存ポイントが多く点在する西側にまで拡大していった。

一度火のついた彼らの勢いは、留まる事を知らないかのようだ。

前編の東部エリアに続き、ブルーマーリンのポイントリサーチ、徹底取材第2弾！

Photo & Text = Takaji Ochi
Special Thanks = Blue Marine
Design = PanariDesign

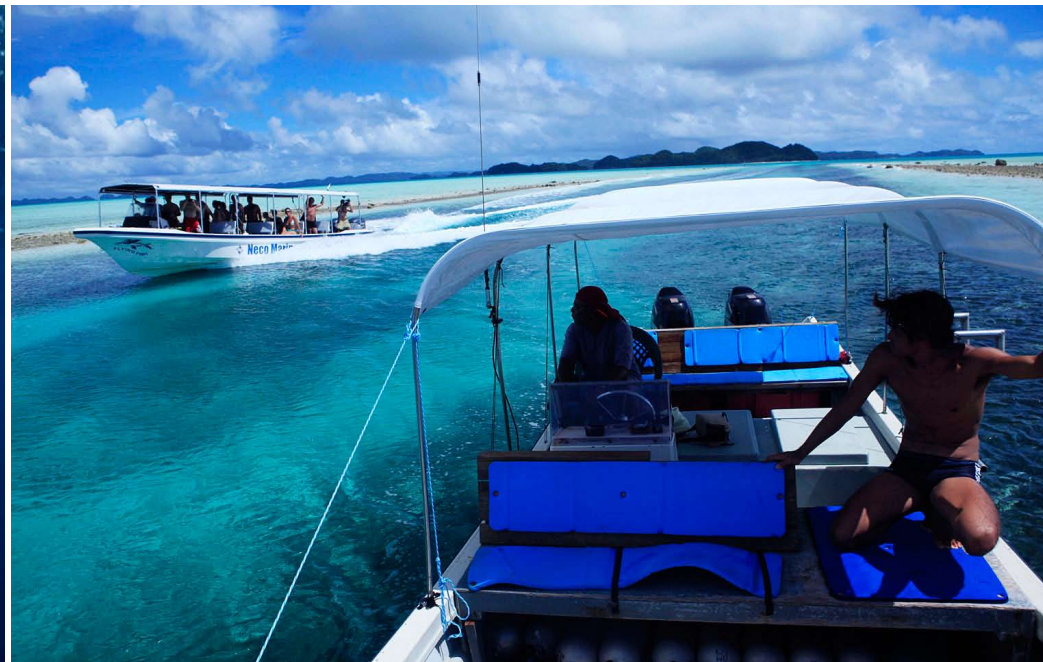
パラオの人気スポットへと続くジャーマンチャネル

©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Web-lue 2010. Winter

Information Link
<http://www.meluis.com>

← 関連情報HPへ



パラオ、 ポイント開拓の 歴史

PIONEER STORY

ブルーコーナーを開拓したのは、いつのことで誰によってなのか？ 確定した説に行き着かなかったのだが、その話題になったときにいつも挙がるのが、フランス・トリビオンという一人のパラワンガイド。パラオでは、伝説的に語り継がれている、パラオのダイビングシーンの創設者。現在のフィッシュアンドフィンズを作った人物でもある。

パラオのガイドたちから聞いた話では、まずブルーホールがポイントとして存在していて、通常はホールを抜けると右に移動していたのが、ある日たまたま左に移動してブルーコーナーが発見されたのだそう。その後もフランスファミリーと呼ばれるパラワンガイドたちによって次々に発見された数々のポイントのおかげで、今の世界に誇れるダイバース・パラダイス・パラオがあるわけだ。

ジャーマンチャネルがマンタポイントとしての地位を確立したのは、1990年代初期のこと。こちら、ネコマリンやサムズツアーなどの欧米系のサービスが、たま

たまポイントとして利用していて、よくマンタに遭遇するというので、クリーニングステーションが発見されたということだ。

ポイント開拓に、日本人の名前が登場し始めるのは、1990年代半ばになってから。以前のシャークシティは、サンゴが美しいポイントで、今潜っているところとは少し位置が違う。今のような上級者向けの群れ、大物ポイントとして潜るようになったのが、当時スプラッシュにいた長野浩さん（現アクアマジック）。

ビッグドロップオフをマクロポイントとして、頻繁に潜り始めるようにした先駆けになったのが、当時フォトパラオに所属していた、佐藤良一さん（現水中カメラマンとして活動している）。

北西部のマンタポイント、ユーカクチャネルの開拓は、1997年頃、デイドリームパラオの下田一司さんらによって行われた。この時はクリーニングステーションを探すのに、数えきれないくらいのリサーチダイブを行っ

たと聞いた。

パラオに、新たなダイビングシーンが誕生する裏には「何か新しいことを見つけよう。新たなパラオの表情を見てみたい、ゲストに伝えたい」というガイドたちの熱い思いがある。

総延長100キロを越す リーフリサーチ

ブルーマーリンの富永さんを筆頭に、スタッフ全員が同じ思いで、ポイント開発を行っている。前回は、パラオ東部エリアのリサーチポイントの紹介を行ってきたが、今回は、それ以外の定番ポイントエリアでの開拓にスポットをあてた。

すでに、20近くの既存の人気ポイントがあるエリアで、さらなるポイント開発が必要なのかどうか。もちろん、魅力的で面白いポイントであれば「イエス」だ。



PIONEER STORY

スタッフが一丸となって 新ポイントの開拓に 取り組む



リサーチ取材のためにタンクをポートに積み込む



雨の日も風の日もリサーチ取材は続く

過去に、他の海でのポイントリサーチに関わって取材した経験もある。しかし、ポイントがほとんど確立されていない海であっても、新たなポイントを見つけるのは、そうそう容易いことではなかった。潜っては挫折、潜っては挫折の繰り返しだ。すでに既存の人気ポイントを20も抱える海であれば、尚更のことだ。

事実、ブルーマーリンでは、ここ数年で20ものポイント開発を行ってはいるが、そのために、総延長100キロ以上に及ぶフリーリサーチを行ってきたと聞いた。過去のガイドたちのポイント開拓が、基本的に1つのポイントに限られていたのに比べれば、驚異的なリサーチ力だといえるのではないだろうか。

東側のポイント開発の成功が、その他のエリアの開発に対しても、勢いをつけていることは間違いない。

東側に関しては、「ポイントとしての魅力の薄さの改善や、ブルーコーナーに潜れないコンディションのときにも、満足してもらえるようなポイント開発」が主な目的だった。それでは、西側はというと「すでに既存のポイントに多く潜っている、リピーターの方たちに、楽しんでもらえるポイント開発」が主な目的だったという。

「ブルーマーリンはゲストのリピーター率も高く、中には数十回もパラオを訪れている方もいます。そんな人たちに、新たなパラオの表情をお見せできればと思って」と富永さんは話す。

カムリブダイ500匹が群れる オリジナルポイント

今回潜った西側のオリジナルポイントの中でも、個人的に気に入ったのがグラスランドとギャラクシー。グラスランドはウーロンエリアにある、サンゴと砂地のポイント。ポイント紹介は後に記すが、取材後にはこ

の砂地でなんと500匹ものカムリブダイが群れているシーンが目撃された。サンゴも美しく、砂地も白砂が広がり、優しさを感じるポイント。

ブルーマーリンでもすでに定番ポイントとして、既存のポイントよりも多く利用しているし、ゲストからのリクエストも多いようだ。

なかなか潜りに行く機会が少ないユーカクエリア。それは、マンタ狙いのユーカクチャンネル以外に、めばしいポイントがなかったからだ。そこで、この周辺でのリサーチも行い、開拓されたのがギャラクシー。

水深30mにある小さなコーナーには、ヨスジフエダイ、カスミチョウウオが密に群れ、クマザサハナムロやウメイロモドキがその上を乱舞する。他のポイントでは、ダイバーが近づけば逃げるのに、何故かこの

魚たちは、逃げないで僕の周囲を取り囲んできた。魚たちが、宇宙空間にちりばめられたスターダストのようだった。ここにマンタが旋回していたのも目撃されているというが、そんなシーンを一度は見てみたいと思いつつ、いつまでもそこに留まっていた。

こんな魅力的なポイントが、今現在も続くポイントリサーチによって新たに発見されているという。取材後のやり取りでも、

「リサーチはその後暇見てやっています。すでにとっても良ネタ、見つけましたよ〜。ウッシッシ。グラスランドのカムリもそうですが、また何か面白いものがまとまってきたら、次の取材のお話もできるかもしれませんね。」

……というような内容のメールを、富永さんからもらった。スタート時の様々な苦勞に比べて、今はブルーマーリンのスタッフ全員が一致団結してリサーチに積極的に取り組んでいることが伺えるコメントだ。

今後のリサーチの成果と、次回の取材を楽しみに、彼らのホームページとブログをマメにチェックする日がしばらく続きそうだ。



西側は大きく北西部エリア、ウーロンエリア、そして、ブルーコーナーのあるゲメリスエリアの3エリアに分割される。人気のポイントが多く点在するエリアに、新たな人気ポイントを開発するのは、とても難しいことだ。しかしいくつかのポイントは、実際に潜ってみて、確実

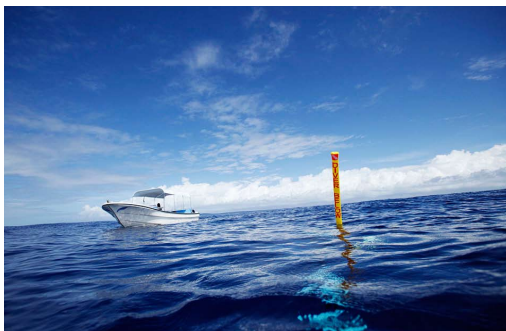
性、潜り易さ、意外性、大物度など、様々な要素を加味しても、既存のポイントよりも、個人的評価が高いものもあり、次にブルーマーリンで潜るチャンスがあれば、絶対にリクエストしたいと思えるポイントもいくつかあった。

PIONEER STORY

- ブルーマーリン オリジナルポイント
- 従来からのダイビングポイント



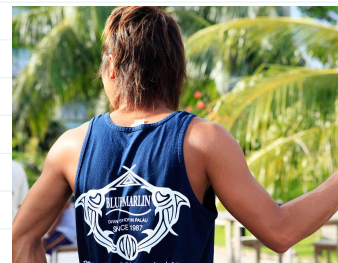
西部エリア オリジナルポイント 徹底ガイド ORIGINAL POINT GUIDE



周囲にダイバーのまったくないダイビングが続いた



島でダイバーたちに出会うとほっとした



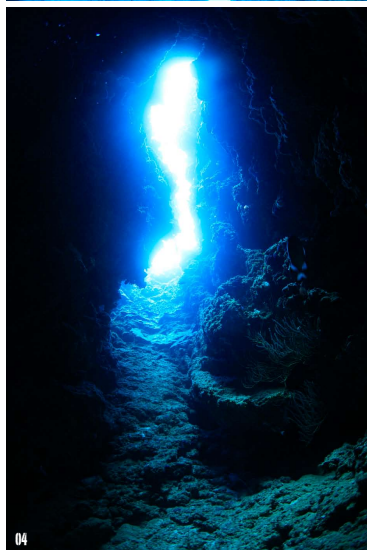
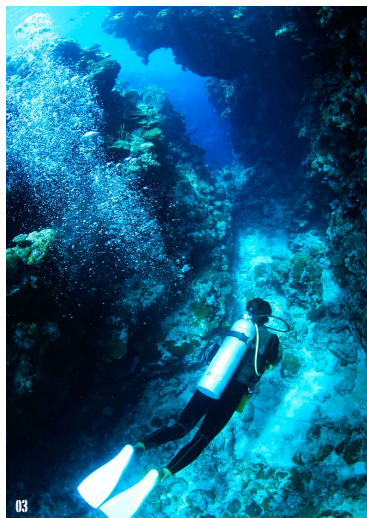
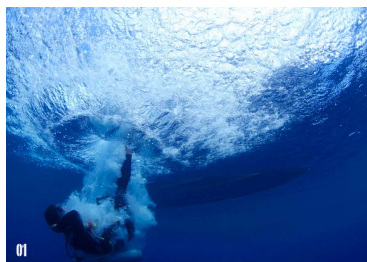
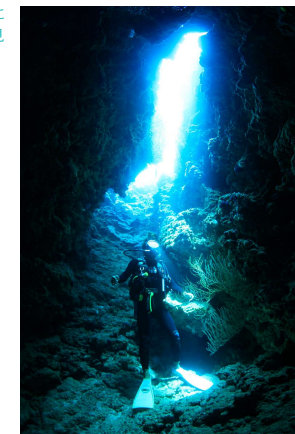
ゲメリスエリア

ブルーコーナーやブルーホール、ジャーマンチャンネルなど人気のポイントが点在し、最も開拓の難しいエリアと言える。

複雑な地形が 楽しめる “ラビリンス”

01 ORIGINAL POINT GUIDE LABYRINTH

浅いケーブ内に
差し込む光を見
上げる



アーチもこじんまりとしている



ブルーコーナーやニュードロップなど人気のポイントがある、ゲメリスエリアでの今現在唯一のBM オリジナルポイント。バージンホールと呼ばれている、あまりメジャーでないポイント近くにある、地形ポイント。

名前の通り、リーフがリアス式海岸のように入り組んでいて、そこに小さなケーブやアーチ、スイムスルーがいくつも点在していることから、この名前がつけられた。

最大でも15mと浅く、のんびりと地形を楽しむことができる。

水深が浅いので、下げ潮の時は、リーフ内から流れ出す濁った海水の影響をもろに受けるため、上げ潮時に潜るのがベスト。特に縦穴から差し込む太陽光が美しい光景を演出してくれるため、やはり快晴の時に潜ると、印象は大きく違ってくる。

ブルーコーナーなどにエントリーする前のチェックダイブ的なポイントとしても利用価値がある。

- 01/リーフの側からエントリー
- 02/複雑な地形がスイムスルーを形作る
- 03/ケーブへの入り口は小さい
- 04/中に入ると、水面からの光が差し込む美しい光景に出会えた



存在感抜群の
バッファローフィッシュの群れに
圧倒される

シアステールでは、50匹以上のカムリブダイの群れに遭遇

ウーロンエリア

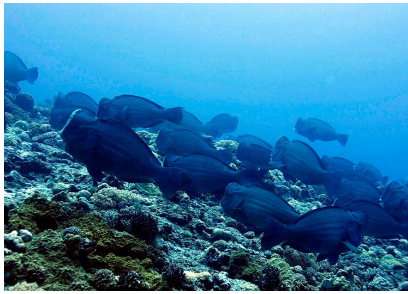
©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

PALAU *Now* WEST SIDE STORY
ブルーマーリン ポイントリサーチ徹底取材 Vol.02, 西部エリア
Web-lue 2010. Winter



Information Link
<http://www.meluis.com>

← 関連情報HPへ



群れて捕食を行なうカムリブダイは迫力満点だ

ウーロンエリア

かなりレベルの高いオリジナルポイントが3つもある。グラスランドは、今回潜った中でも評価が高かったポイントだ。



03/ブラックフィンバラクーダの群れにも遭遇

04/ウォールには、アオマスクの姿が目立つ

シアスドロップの外側にある、小シャークシティのようなポイント。パラオのダイビングガイドブック「ダイビングアゴーゴー」にテールシアスとして紹介されている。以前、ブルーマーリンでもポイントとして使用していた時期もあったらしく、どちらかと言えば復刻ポイントといえる。

リーフトップも水深15m程度と浅く、その割には多くの魚を観察できる。上げ潮、下げ潮、どちらでもエント

復刻した小シャークシティ “シアステール”

リー可能だが、ガイドの富永さんは、下げのタイミングで入るのを好む。

リーフトップにはキングヨハナダイ、バートレットアンティアスが群れ、ブラックフィンバラクーダの群れとの遭遇確率も高い。ドロップオフでは、アオマスクやスミレナガハナダイなど、定番のアイドルフィッシュの個体数も多い。ギンガメアジやオオメカマスが群れていたり、ロウニンアジが群れていたりすることもあり、飽きさせない。

今回の取材では50匹以上のバッファローフィッシュの群れに遭遇した。しかも、かなり寄れたために、個体のサイズの大きさに圧倒された。別の日には、浮上中にシイラの群れを目撃した。海中でシイラの群れをダイビング中に見れるのは、かなりレア。富永さんは、初めて目撃したし、自分は過去に1回しかない。



04



01



02

01/リーフエッジに群れるのは、アカネハナゴイ

02/マダラタルミの群れ

02 ORIGINAL POINT GUIDE SIAS-TAIL



ギンガメアジの群れは、密になっていて、絵になりやすい

PALAU *THE* WEST SIDE STORY

ブルーマーリン ポイントリサーチ徹底取材 Vol.02, 西部エリア

Web-lue 2010. Winter



Information Link
<http://www.meluis.com>

← 関連情報HPへ



确实性と潜り易さ、そして意外性。
レギュラーになる
実力を秘めたポイント

グラスランドに姿を見せた、インドオキアジとメアジの群れに取り囲まれた

ウーロンエリア

©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

PALAU *Now* **WEST SIDE STORY**
ブルーマーリン ポイントリサーチ徹底取材 Vol.02, 西部エリア
Web-lue 2010. Winter

 Information Link
<http://www.meluis.com>

 関連情報HPへ



パラオでは珍しい、白砂の海底が広がっている

砂地で身体をやさめる、ホワイトチップシャーク



美しいサンゴのスロープが水深10m～15mぐらいで砂地になって深場まで続いている。砂地の水深25m以深には、アキアナゴのコロニーがあり、それがこのポイント名の由来だ。

地形だけで言えば超癒し系のポイントだが、魚の群れも多い。オオカマス、オオメカマスの群れやクマザサハナム口類、砂地にはツカエイやヤマアラシエイなどが良く見られる。撮影時には、普段ウーロンチャンネルエリアにいるインドオキアジとメアジが群れていたし、ナ



今回一押し! 魚影も濃い、癒し系の砂地ポイント “グラスランド”

03 ORIGINAL POINT GUIDE GRASSLAND

- 01/ 砂の中から、顔を覗かせる、無数のアキアナゴ。まるで草原の草が風でなびくようだ
- 02/ 砂地で良くみかけるツカエイ
- 03/ 砂地だと、オオメカマス、オオカマスの群れも美しい



ンヨウツバメウオの大群が通過していったり、取材後には、およそ500匹ものカンムリブダイが群れていたのも目撃されている。

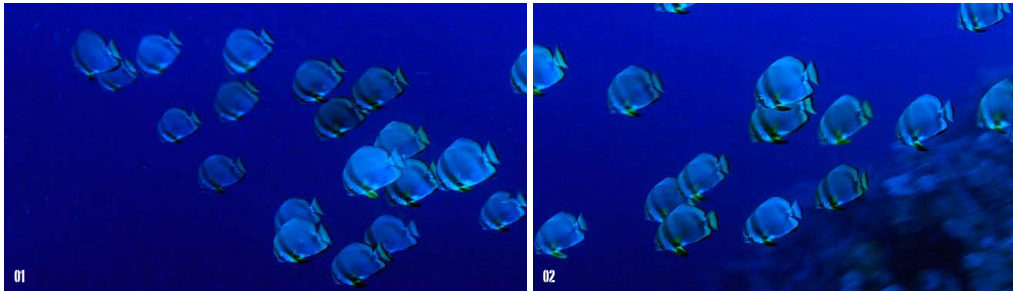
おそらく、今後一番頻りに潜られる可能性の高いポイントの一つではないかと思うくらいに、確実性、潜り易さ、意外性のそろったポイントだ。

ウーロンエリア

PALAU *THE* WEST SIDE STORY
 ブルーマーリン ポイントリサーチ徹底取材 Vol.02, 西部エリア
Web-lue 2010. Winter

Information Link
<http://www.melius.com>

← 関連情報HPへ



01・02/せわしなくダイバーから逃げ回るツバメウオの群れ

ウーロンクリフからほど近い、ドロップオフから、小さくコーナー状に突き出たリーフのポイント。コーナーの先端の水深は約25m。コーナーそのものは狭く、全体が見渡せるくらいのサイズ。その狭いエリアにマダラタルミ、バラフエダイ、オオメカマス、ツバメウオ、ツムブリ、クマザサハナムロなどの群れが、まるでフィッシュスープのようにぎっしり凝縮されて、群れている。時折、イソマグロやカマスサワラなどの大物も回遊してく



ヒメテングハギもよく群れていた

フィッシュスープのような
魚圧に圧倒される
“レボッテルコーラルガーデン”

04 ORIGINAL POINT GUIDE REBOTTL-CORAL-GARDEN



03/頻繁に姿を見せたツムブリの群れ
04/クマザサハナムロは、コーナー上を覆い尽くす

る。周囲の根のサンゴも美しい。

湾内で、あまり強い流れも入らないし、移動範囲も狭いのでビギナーからエントリー可能なポイントだが、下げ潮では、やはりどうしてもやや濁りが目立つ。

使用頻度はあまり高くないということだったが、魚影は濃いし、サンゴも美しい。ウーロンチャンネルと、シアストーンネルの間にあり、チャンネルを挟んで反対側のグラスランドとともに、定番ポイントとして位置的にも潜り易いポイントだと思う。



サンゴも元気に成長している

ウーロンエリア

PALAU *Now* WEST SIDE STORY
ブルーマーリン ポイントリサーチ徹底取材 Vol.02, 西部エリア
Web-lue 2010. Winter

北西部エリア

ユーカクチャネルのある北西部は、以前からこれといったポイントがなく、一か八かのマンタ狙い以外では、潜りに行きづらいという話を多くのダイビングガイドから聞いていた。そのエリアでも、マンター本やりのダイビングに終止せず、ゲストに楽しんでもらえるポイントを複数開拓している。



北西のマンタポイント、ユーカクへ向かう途中のチャンネル、ウエストパッセージから外洋へ抜けて、南へしばらく下った外洋のリーフ。リーフトップはエッジ部分で水深30mオーバーと深く、印象としては、ウーロンエリアのシャークシティ、あるいはカヤンゲルのテールトリーフを思わせる。

明確なのは、途中かぎ爪のように突き出した地形。ここがポイント名の由来でもあり、ダイビング中のキーポイントになっている。ロウニンアジが見られることがあり、それがこのポイントでの一つの狙いになる。ロウニンアジは、ベリリューで見られるものよりも、個体サイズが大きく、今までのところ100～200匹が群れているのが確認されている。



01/ドロップオフの下から突然姿を見せたマンタ

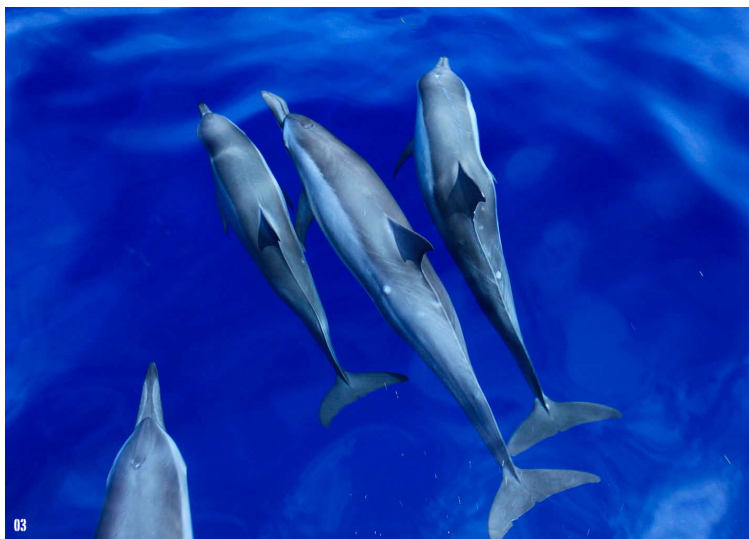
02/かぎ爪の先端は意外とカラフル

03/広い湾内では、イルカの姿を良く見かけた

04/これが「かぎ爪」の全容だ

何が飛び出すかわからない 大物狙いポイント “ザクロウ”

05 ORIGINAL POINT GUIDE THE CLAW



05/カムリブダイの産卵行動も目撃

06/ツムブリの群れに取り囲まれた



このロウニンアジの他にも、ブラックフィンバラクーダの群れ、バッファローフィッシュなども多くみられるが、何よりも、何か予期せぬ大物が飛び出してきそうな期待感の大きなポイントだ。

ベリリューでは、ロウニンアジを狙うのであれば、満月前が産卵活動のために群れが大きくなり、浅場へ上がってくることから、その時期が狙い目なのかもしれない。

取材では、新月回りだったこともあり、ロウニンアジは目撃できなかったものの、ツムブリ、ブラックフィンバラクーダ、バッファローフィッシュの群れと産卵行動が確認できた上に、まったく期待していなかったマンタがドロップオフから姿を見せて、悠然と泳ぎ去ってくれた。

予期せぬ場所でのマンタとの遭遇は、狙って入った時よりも興奮と感動が増幅させられた。

PALAU *THE* WEST SIDE STORY

ブルーマーリン ポイントリサーチ徹底取材 Vol.02, 西部エリア

Web-lue 2010. Winter

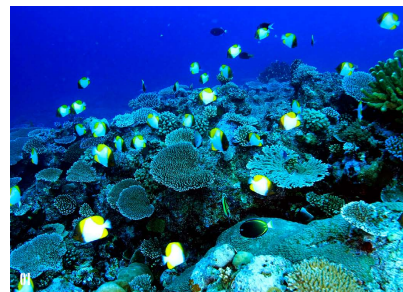
ユーカクチャネルの手前にある、チャネル外洋、北側に広がる広大なサンゴの大群生。その規模は「サンゴならマーシャル」と言うほどの規模を持つマーシャルのサンゴエリアをものぐ規模。パラオでも、これほどの規模のサンゴポイントはなかなか無いと言う。

特に目を引くのが巨大なテーブルサンゴの大群生。パラオのテーブルサンゴは、年間5センチくらいずつ成長するらしいので、中には、3～4mサイズのテ-

ブルサンゴも数多く点在していることから、単純に計算しても60年から80年もの長い間、成長を続けていることになる。

ということは、10年前に起こった白化現象を免れて成長し続けた、生命力の強いサンゴたちが、このエリア一帯のリーフを埋め尽くしていると考えられるわけだ。

水深が15m～30mと深めな場所に生息エリアがあることも、起因しているのかもしれない。とにかく、尋



01/サンゴの上に群れるカシミ
チョウチョウウオ
02/激しく泳ぎ回る、ブラック
フィンバラクーダの群れ

80年も成長を続ける テーブルサンゴの大群落 “ウエストパッセージ”

06 ORIGINAL POINT GUIDE WEST-PASSAGE

常でないほどのサンゴの大群生に、圧倒されるに違いない。

サンゴのポイントは、得てして魚群などがまばらだったりするのだが、このポイントではそんなことはなく、カシミチョウチョウウオ、マダラタルミ、タカサゴなどが定番で群れている他、ブラックフィンバラクーダ、ナンヨウツバメウオ、ツムブリなどが群れで姿を見せてくれる。また、ホシカイワリが200匹くらい群れているのも、何度も確認されていて、サンゴを鑑賞するだけの単調なダイビングに終止しない。

グレイリーフシャークなども、ダイバーに慣れていないからか、何度も様子を伺うように接近してきたり、巨大なマダラトビエイがしばらく近くで旋回してくれていた。

こちらも、パラオのガイドブック「ダイビングアゴーゴー」にもポイントとして紹介されているため、明確なBMオリジナルポイントとは言いがたいが、それでもあまり多くのサービスには利用されていないようだ。



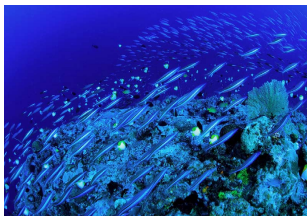
03/珍しいホシカイワリの群れとの
遭遇確率も高い

04/中層では、マダラトビエイや、
グレイリーフシャークの姿が



60年以上も成長を続けていると思われる巨大テーブルサンゴが点在している

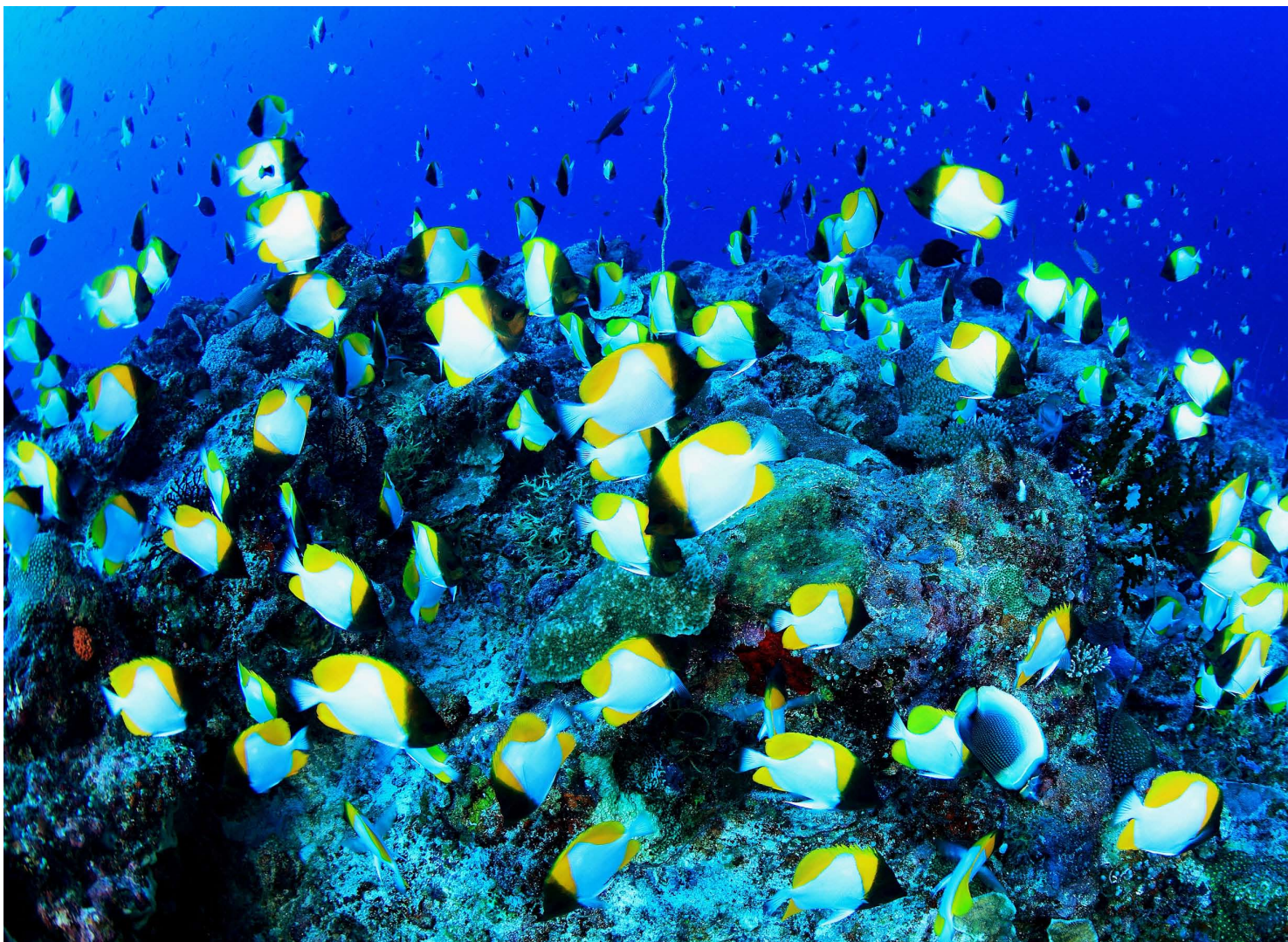
北西部エリア



魚たちの乱舞は、スターダストのようだ

宇宙での浮遊感を堪能できる 癒しの空間 “ギャラクシー”

07 ORIGINAL POINT GUIDE GALAXY



着底すると、ワラワラと集まってきたカスミチョウチョウウオたち

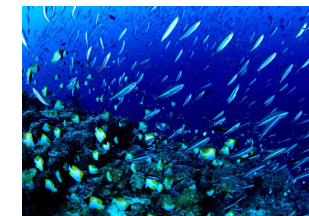
ユーカクチャネル外洋、北側のリーフに位置する。サンゴの群生が続き、平坦なリーフから少し飛び出すようにのびた水深30mの小さなコーナー部分に、ヨスジフエダイの小さな群れがあり、カスミチョウチョウウオ、クマザサハナム口、ウメイロモドキなどがコーナー先端で乱舞する。

透明度も高く、狭い範囲での魚群の濃さは、圧巻。魚たちの乱舞は美しく、宇宙空間でスターダストに囲まれて浮遊するような気分させてくれる。いつまでもそこに留まって、魚たちに囲まれて水面を見上げてぼ～っとしていたくなるほど、気持ちの良いポイントだ。

水深が30mと深く、一点集中になるために、ゲストの反応は様々なようだけど、個人的には今回取材した中ではお気に入りのポイントの一つ。フォト派ダイバーなら、かなりワイド撮影が楽しめるのではないと思う。

マンタポイントのユーカクに近く、以前はこの魚たちの乱舞する中央でマンタが鎮座しているシーンを目撃したこともあるという。

この情景の中心に、マンタがいるのを思い描いただけでも興奮する。いつかそんなシーンに遭遇してみたいものだ。



無数のクマザサハナム口たちが、目の前ではじけた

北西部エリア

PALAU *Nao* WEST SIDE STORY
ブルーマーリン ポイントリサーチ徹底取材 Vol.02, 西部エリア
Web-lue 2010. Winter

Information Link
<http://www.melius.com>

← 関連情報HPへ



「全てはゲストのために」一致団結して リサーチに望むBMスタッフ

DIVING SERVICE GUIDE

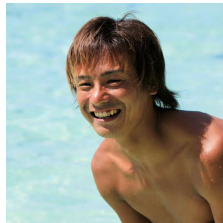


アーノルド

今回の取材では、初日にスキッパーを担当してくれた。パラオ最南端の島、トビ島出身（現在の島民人口は6人らしい）。シャイだけど、とても人懐っこい性格。真面目で、良く働き、良く食べる。

クレイトン

元DJの洪い声の持ち主。エンターテナーで、ボートの操船から、ガイドまでなんでもこなすマルチタレント。今回は一緒に潜る機会は無かった。

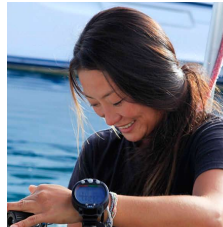


木村沙緒里 (キムラサオリ)

オーストラリアで2年間インストラクターとして修行を積む。小笠原、マレーシア、沖永良部などの島での生活経験がある。ニックネームはラッシュャー。体験、講習担当が多い。

井口優 (イグチユウ)

明るく、爽やか。ブルーマリン最年少スタッフ。「水中でも楽しい気持ち伝えあるようなガイド」を心がける。オリジナルポイントにも、かなりはまっている。



石浦龍二 (イシウラリュウジ)

パラオ歴10年目。BMのマネージャー。ポイントリサーチの中心人物。富永さんとは、大学時代のダイビング部の同期。今回のブルーマーリンのポイントリサーチが、これだけ大掛かりに、そしてスムーズに行われたことは、二人の学生時代からの友人関係のおかげ。ディスカバリーコースでは、富永さんとともに、ガイドを担当する。一児のパパで、とても子煩悩で有名。

富永直之 (トミナガナオユキ)

パラオ歴7年。今回のポイント開発リサーチの中心人物。パラオの中でも、最も多くのポイントに潜っているガイドの一人だろう。フリーダイビングの選手でもあり、現在2種目において日本人記録を保持。07年の世界選手権では日本人初のメダリストにも輝いた。



キャプテンレモン

今回、リサーチポイント取材を通じて、スキッパーを担当してくれた。寡黙だが、船上での落ち着いた雰囲気、常に安心感を与えてくれた。豊富な海の知識は、リサーチにも多に役にたったという。ブルーマーリンのパラワンスタッフのみならず、他のサービスのパラワンスタッフからも、「アングル（おやっさん）」と呼ばれるほど、信頼されている人物。

プリン

取材時には不在だったために、一緒に潜ることはなかったが、陽気で、日本語も堪能。のんびり屋で優しく、ほっとするような雰囲気は、ガイドングにもにじみ出ている。

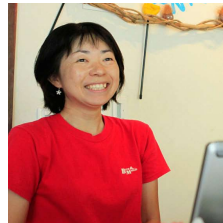


ブルーマーリン

今回紹介したポイントに留まらず、現在も積極的にオリジナルポイントの開拓に力を入れていて、その範囲はさらに北へと拡大している。オリジナルポイントは2009年1月から、ディスカバリーコースとしてゲストに提供していて、人気も高く、最近では既存ポイントと同じか、あるいはそれ以上の頻度で潜るポイントも多い。もちろん、ブルーコーナーやジャーマンチャネルなどの定番ポイントも積極的に潜り込む。体験や講習などにも力を入れているなど、ハードリピーターから中堅、ビギナーなど幅広い層のダイバーの受け入れ態勢も整っている。

ダイビングボートは、パラオでもまだ少ないトイレ付きのスピードボート3隻を駆使して、様々なレベルに合わせたダイビングを提供してくれる。

パラオロイヤルリゾート内に店舗を構え、施設も新しく充実している。ショップ併設のおみやげ屋さん「White Rock Lily」で販売しているオリジナルデザインのTシャツなどは、BMのゲストのみならず多くの観光客に人気。



谷藤英恵 (タニフジハナエ)

オフィスワーク&White Rock Lily 担当。大のネコ好き。

フレイブ

タンクチャージ専属スタッフ。ショップでタンクを運んだり、掃除したり、たまにファンダイブしていることも。



PALAU *New* WEST SIDE STORY

ブルーマーリン ポイントリサーチ徹底取材 Vol.02 西部エリア

Web-lue 2010. Winter